



大庄中だより

令和5年 12月 25日

尼崎市立大庄中学校

校長 徳山 壮一 No. 15

さあ! 明日から 冬休み



いよいよ14日間の冬休みが始まります。冬休みには、『正月』という節目があります。『1年の計は元旦にあり』のことわざ通り、過ぎた1年を静かに振り返り、来るべき新年の目標を定め、計画を立てるのに最適な休みです。学習面・生活面・体力面のそれぞれに目標を定め、その達成のために顔晴ることのできる冬休みにしましょう。3学期 始業式

に『いい目』『いい顔』の皆さんと再会できることを心から楽しみにしています。

始業式 令和6年1月9日(火)

3年生の皆さん・・・行事はもちろんのこと、すべてのことに対して、常に学校の主役としてリーダーシップを発揮し、後輩の見本となるべくよく顔晴りました。冬休みはじっくりと腰を落ち着けて学習するチャンスです。皆さんは、素晴らしい力を持っています。絶対にあきらめることなく、自分を信じて、日々小さな努力を積み重ね、夢・目標を叶えましょう。

2年生の皆さん・・・3学期、いよいよ皆さんの時代がやってきます。3年生の先輩が築いてきた伝統を引き継ぎ、学校の主役としての活躍を期待しています。皆さんなら必ず素晴らしい学校の主役になれると信じています。

1年生の皆さん・・・学校行事を通して、学級・学年の仲間とともに、中学生として大きく成長できました。4月には、後輩が入学してきます。3学期、さらなる成長と活躍を期待しています。皆さんには、無限の可能性が広がります。



チーム大庄の活躍

○第9回近畿中学校少林寺拳法大会

女子単独演武3級未満 矢野来実 3位

女子組演武3級未満 田口巴菜・西崎もも 1位

北浦百恵・松浦虹瑚 3位

井上凜花・岩城里咲 4位

女子団体演武 3位



○男子バスケットボール部

第3回SHIOMICUP **優勝**

第306回ONIONバスケットボール交流試合 **優勝**

○女子バスケットボール部

第39回さつき杯 **優勝** 最優秀選手賞 中野萌華



生きる勇気をありがとう

清水 哲さんは、プロ野球選手を夢見て野球の名門PL学園に入学します。3年生の時、1学年下の元読売ジャイアンツの桑田真澄さん、清原和博さんとともに甲子園で大活躍し、春夏準優勝という素晴らしい成績を残し、高校日本代表にも選出されます。同志社大学に進学後、1年生の秋、試合中に2塁ヘッドスライディングを試みたとき、相手のショートと激突し、首の骨を折ります。プロ野球選手どころか、首から下が全く動かず、日常生活もままならない重度の身体障害者となります。清水さんは、「生きている意味がない」と生きる希望を失います。その清水さんに再び「生きる勇気」を与えたのは、弟のようにかわいがっていた桑田さんの言葉です。『少なくとも僕一人は助かっています。プロに入っているいろいろあって精神的にきついときでも元気に生きてこれたのは、哲さんのおかげです。』生きていると、辛いことがいっぱいあります。成績のこと、進路のこと、友達関係のこと、家庭内のこと……。本当に辛くて、生きていることが嫌になったりすることもあるかもしれません。しかし、桑田さんにとっての清水さんのように、自分のことを必要としてくれる人が必ずいます。生きている価値のない人なんて絶対にいません。どんなに辛いことがあっても、自分のことを絶対に必要としてくれる人、大切に思ってくれる人、支えてくれる人が必ずいることを忘れないでください。12月25日 2学期 終業式 校長講話

第42回中学生人権作文コンテスト最優秀賞



『不機嫌が消えたこと』

高木康聖



ある日、僕は朝から機嫌が悪かった。なぜなら予防接種を受けるために病院に行かなくてはならない日だったからだ。小さい頃から何度も病院には行っているが、とても行きたい場所ではない。特に注射は苦手で、当日はとても嫌な気分になる。母に連れられて、重い足を引きずるように病院へ向かった。病院に着くと、待合室は相変わらずの混雑で、僕はさらに不機嫌になった。仕方なく順番を待っているとき斜め向かいに一組の親子らしき人がいた。高齢の女性と三十代位の男性だった。その男性はタブレットを手に持ち、大きめの音を出しながら何やら見ていたのだ。その状況に僕はムッとした。病院では静かに！ということは何度も言われてきたし、今となれば、常識やマナーであると思うようになった。人一倍常識やマナーにうるさい母に何度も言われ続けてきたこともあるだろう。しかし、明らかにわかる大人が、病院で音を出しながら何かを見ているとは、なんて非常識な人なんだと思った。周りに居た人もジロジロ見ながら不機嫌そうな顔をしていたから、きっと僕と同じように思っていたんだろう。少し距離を取るよう移動する人もいた。なのに、隣に居た母親らしき女性は何も言わずただ見ているだけだった。それから少しして今度はその女性がタブレットを持って何やら操作している。僕は呆れるようにただ黙っていたら、僕の隣に居た母がスッと立ち上がりその親子らしき人が居る方へ近づいていったのだ。僕は、母のことだから注意でもしに行っただけじゃないか？と思ったが、そうではなかった。結果的に母はその親子らしき人達を助けたのだった。実際に親子だったらしくタブレットを見ていた息子さんは発達障害があり、タブレットを見ていないと大声を出したり、歩き回ったりしてしまうそう。だからお守りのようにタブレットを見せていただけ、途中で切れてしまっただけで焦りながら操作していたところ僕が声をかけたようだ。母が「やってみましょうか？」と声をかけ、タブレットを操作したら上手く作動したようで、母はニコニコしながら僕の隣に戻ってきたのだ。一通りの話を僕に聞かせてくれた。そのうちその親子の順番が来て、その少し後に僕の順番が来た。注射は痛かったけど、僕は母がなぜその親子が困っているのに気がついたんだろう？と思うのと同時に、発達障害をもつ人に非常識な人だ！などと思ってしまったことを後悔したり、見た目ではわからないから仕方ないよと納得してみたり、色々考えているうちにあっという間に終わり、不機嫌な気持ちも消えていた。帰り際、その女性は息子さんの手を引きながら、とても優しい笑顔で何度も母に向かって頭を下げていた。母も同じように笑顔で返していた。世の中には、見た目では全くわからない様々な障害を持った人が沢山いる。一見、非常識だなと感じてしまう行動や言動をしてしまう人もいる。見た目ではわからないといっても、その障害の種類や程度は様々である。少し勉強してみたが、全てを知るのは難しいと感じた。ただ、困っている人がいれば、今何をすれば助けになるかを見つけ、声をかけたり行動できる人間になろうと思った。つまり、見た目や状況だけで判断するのではなく少し寄り添う心があれば良いんじゃないかと思う。母にどうしてあの人に何か障害があるとわかったのか？どうして何かに困っていることがわかったのか？と改めて聞いてみたが「なんとなく」とあの日女性に向けた笑顔でそう答えるだけだった。「でもあの日のお母さんの笑顔は忘れないし素敵だったね」と女性のことを嬉しそうに思い出していた。たった数秒のやり取りだったのに、母の行動は親子の役に立っただけではなく、二人の女性を素敵な笑顔にしたのだ。僕も「なんとなく」がわかる大人になりたい。困った時はお互い様の気持ちを一人一人が持てる世の中になりますように。

